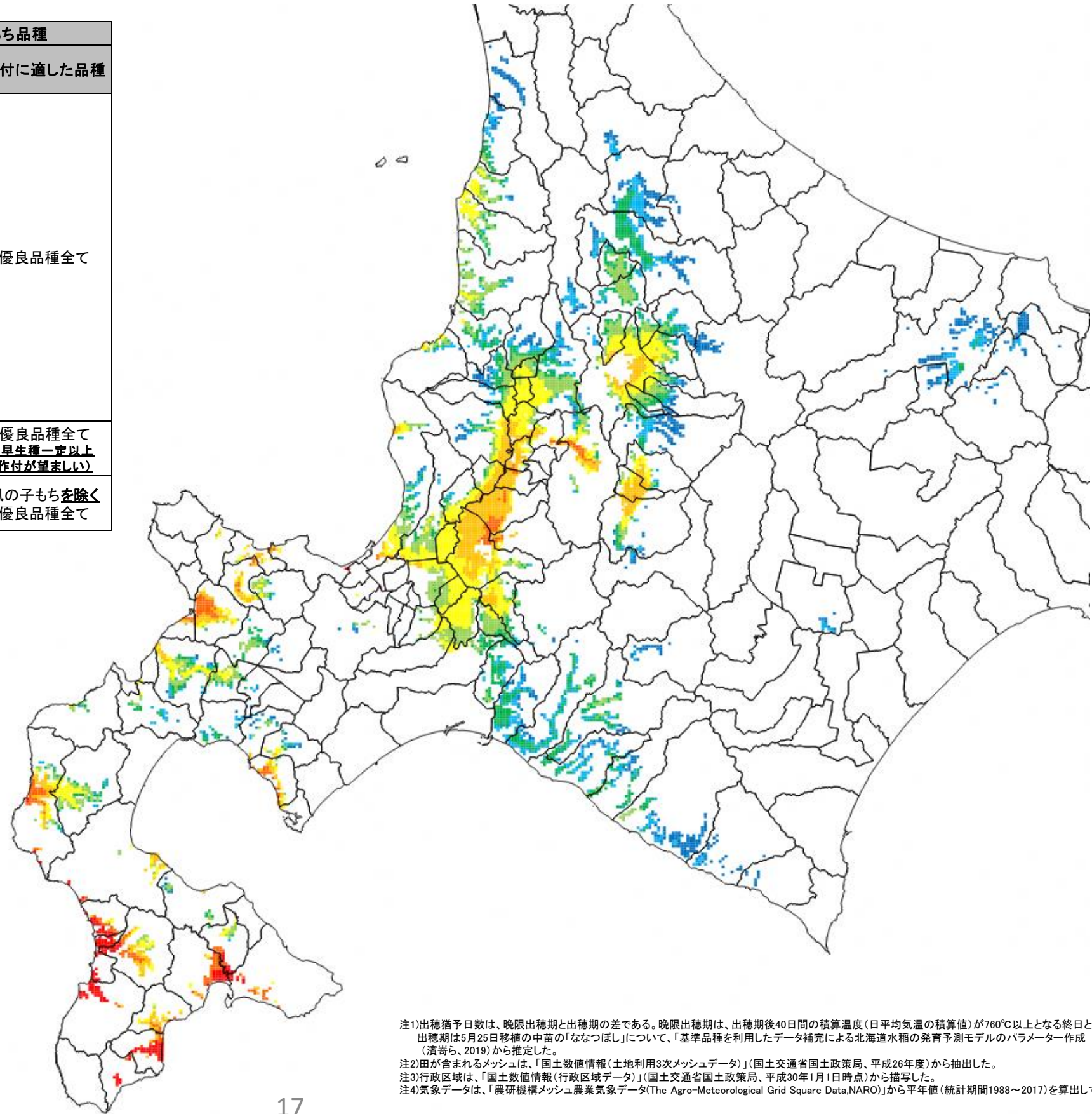


# マップ1 熟期区分と作付に適した品種(「ななつぼし」(中苗)の出穂猶予日数)

凡例	ななつぼし 中苗の 出穂猶予日数	うるち品種		もち品種		
		熟期 区分	作付に適した品種		熟期 区分	作付に適した品種
			移植	直播		
	17日以上	1	優良品種全て	きたくりん、 ふっくりんこを除く 優良品種全て	1	優良品種全て
	14日以上 17日未満					
	11日以上 14日未満	2	優良品種全て	えみまる 大地の星 そらゆたか		
	8日以上 11日未満					
	5日以上 8日未満	3	きたくりん、 ふっくりんこを除く 優良品種全て	えみまる		
	2日以上 5日未満					
	-1日以上 2日未満	4	きたくりん、 ふっくりんこを除く 優良品種全て	-	2	優良品種全て ( <u>早生種一定以上 作付が望ましい</u> )
	-1日未満				3	風の子もちを除く 優良品種全て



- 本データは、平年の気象条件の年に、中苗で、5月25日に移植した場合に、概ね1等米が生産できると判断される品種である。
- 作付に適した品種以外は作付できない訳ではなく、良質米を生産できないリスクが高いということを示しており、実際の出穂期が晩限出穂期から遅れるほどこのリスクは高まる。
- 良質米生産に向け、①移植は5月25日までを目標に移植時期(播種時期)を計画する、②育苗様式に適した健苗を育成する、③栽植密度を確保する、④適正施肥など出穂を遅らせない栽培管理に努めることが有効である。また、前歴期間から冷害危険期にかけて深水管理を励行する。
- その他、このモデルで加味していない緯度や風などの地理的要因、灌漑水温、防風林など圃場周辺の環境により、実際の出穂期や品種間の相対的出穂期の序列はある程度変動するため、実際の品種選定の際には、過去の実態と試作結果も含め判断すべきである。

注1)出穂猶予日数は、晩限出穂期と出穂期の差である。晩限出穂期は、出穂期後40日間の積算温度(日平均気温の積算値)が760℃以上となる終日とした。出穂期は5月25日移植の中苗の「ななつぼし」について、「基準品種を利用したデータ補完による北海道水稻の発育予測モデルのパラメーター作成(濱岸ら、2019)から推定した。

注2)田が含まれるメッシュは、「国土数値情報(土地利用3次メッシュデータ)」「(国土交通省国土政策局、平成26年度)から抽出した。

注3)行政区域は、「国土数値情報(行政区域データ)」「(国土交通省国土政策局、平成30年1月1日時点)から描写した。

注4)気象データは、「農研機構メッシュ農業気象データ(The Agro-Meteorological Grid Square Data,NARO)」から平年値(統計期間1988~2017)を算出して用いた。